

令和3年度 自己評価表(中間評価)

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>社会人・職業人としての基礎的な力の育成 (授業改善、職業教育・進路指導、生徒指導、自治活動) 障がいのある人の地域での活躍を目指して (地域・企業連携、部活動等、啓発・広報活動) 働きやすい職場、一人一人が成長できる組織作り (人材育成、時間外業務削減)</p>
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初		評 価 結 果 (10月)					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○授業改善 ～「考える力」をつける～	○生徒アンケートより、「勉強がわかる、ややわかる」と回答した生徒が全学年8割だが、「わかる」は5割に達していない。 ○「授業が楽しい」と感じている生徒は5割から8割弱と学年により差がある。	○基礎的な学力が身につく、自らが学ぼうとする意欲が育っている。 ○生徒アンケート「勉強がわかる」「授業が楽しい」が前年度より向上している。	○学習の基礎となる「学習のルール」を定期的に確認する。 ○教科会を設定し、授業の見直しを図る。 ○研究研修担当と連携し授業研究会を実施する。 ○授業改善のために情報発信をする。	○学ぶ意欲について、教職員アンケート、2割が概ね達成、5割が変化の兆しと回答。 ○生徒アンケート、授業が楽しいで6割、授業がわかるで8割の生徒が肯定的評価。全体で見ると昨年度と同じような割合。	B	○9月より教科会を設定し、具体的な方策の検討をする。 ○同じ教科を指導する教員が、研究授業で見合えるような体制づくりをする。 ○落ち着いた雰囲気や授業に望めるよう、朝読書やチャイム着席を促進する。
		○異動による教職員の大規模な入れ替わりや様々なキャリア段階の教職員の在籍等のため、生徒が「考える」授業づくりへの取り組みが不十分である。 ○生徒の実態に大きな幅があり、一斉指導の中にも細かな支援や配慮を必要とする。	○授業の中で、生徒の「考える」姿が見られるよう、教職員が授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研修会を行い、取り組みについて職員で共有する。 ○授業研究会を行い、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組む。(就労準備性チェックリストの実施)	○自分の取り組みを振り返る授業実践シートを作成し、各教科グループでの話し合いの中で、目指す生徒像や有効な指導方法、今後の授業実践における改善点等について共有した。	B	○授業研究会(全9教科)を行う。 ○各研究グループでの話し合いの内容をまとめ、全教職員で共有し、今後の授業改善に取り組む。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組む。(就労準備性チェックリストの実施)
	○職業教育・進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○専門共通目標と各コースの振り返りをシートを使ってやっているが、活用は不十分である。	○コース選択や進路を考えるときの材料として振り返りシートが活用されている。 ○個々の目標を設定するときに振り返りシートが活用されている。	○どの場面で活用するのか定期的かつ具体的に提示する。 ○個々の目標は、キャリアパスポートに綴られている振り返りシート等を見ながら設定する。(2, 3年)	○コースのローテーションが変わるタイミングで振り返りシートの取り扱いについて確認した。	B	○コース選択の時期に振り返りシートの活用を促す。
		○現場実習での生徒一人一人の課題についてコース担当者で共有できているコースとできていないコースがある。	○コース担当者が生徒一人一人の課題を把握し、コースの特性を活かしながら、生徒に必要な職業的スキルを伸ばす教育が行われている。	○生徒の課題の共有方法や職業的スキル向上のためにコース内でできることを、コース会の議題にするなど、協議する時間を確保する。	○生徒の課題の共有について、7月のコース会で議題に挙げ、コース担当者で課題共有する必要性とその方法について確認した。	C	○1月のコース会にて、意識向上が図れたかを確認する。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業前スキルが不十分なままに就職する生徒がいる。	(1年生)自分の良さや課題を理解している。 (2年生)自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 (3年生)自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるよう、学年団と進路部が連携して計画的に実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業前スキルを身に付けるきっかけとして、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団と相談をすることで生徒の希望や適性に合った企業の選定ができつつある。 ○生徒、職員に対して授業や研修で情報提供を行っており、意識の向上につながりつつある。	B	○現場実習と授業のつながりを意識して、引き続き学年団と進路部の連携に努める。 ○生徒、職員の進路指導に対する意識を更に向上させるために、引き続き授業や研修で情報提供を行う。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○多くの生徒がSNSを利用しており、トラブルが生じることもある。 ○生徒のみでトラブルに対応してしまい、拡大・複雑化してしまうこともある。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかつたりする生徒もいる。	○保護者とともに決めた携帯電話等の使用ルールを守ることができる。	○保護者とともに「我が家のルール」を作成し、定期的に見直しを行う。 ○個人懇談等を通じて、保護者と情報共有を行う。 ○具体的なネットトラブル事例を題材とした生徒・保護者・教職員対象の各講演会や研修会を実施する。	○使用ルールとした「我が家のルール」を十分に意識して過ごすことができずトラブルも生じている。違反等があった際には家庭とも共有し、「我が家のルール」の再度確認や見直しに活用した。 ○外部講師による講演会は延期となり実施できていない。	C	○年内を目安に「我が家のルール」を家庭に持ち帰り、再確認及び見直しを実施することで意識を高める。 ○生徒を対象とした外部講師による講演会の日程を検討し実施していきたい。
		○挨拶、返事、時間を守るなど基本的な生活習慣や学習・集団規律が習慣化されていない生徒が少なくない。 ○自分の気持ちのコントロールの仕方がわからず適切な表現ができない生徒や自分のよさが実感できず自己肯定感の低い生徒が少なくない。	○生徒自らが生活や学習態度を見直し、よりよくしたり、学習・集団規律を守ったりして生活することができる。 ○自分の気持ちをコントロールする方法を身につけて生活したり、学習や生活の中で自分の成長を実感したりすることができる。	○基本的な生活習慣や規律を守ることをなぜ大切なのかをLHR等で随時指導する。 ○わかる授業を展開し学習規律を徹底するとともに、個に応じた指導を職員間で共通理解し一貫性のある指導を行う。 ○担任面談や職業自立の学習の中で自らの生活や自分自身を見つめ、課題や目標そのための行動を具体的にしたり、できるようになったことを確認したりする。	○各学年の実態に応じて学習規律や集団規律が徹底できるよう随時指導している。 ○生徒個々の実態や課題、支援や配慮事項について学年団で共通理解し必要に応じて月2回の生徒情報の会で指導方針を協議・検討し全体で共有している。 ○生徒との面談等を通して個々の課題に気づけるようにしているが、生徒アンケートの結果からも基本的な生活習慣の定着や気持ちをコントロールする力は十分に身についてはいない。	C	○挨拶、返事、言葉遣い、ルールを守ることが卒業後の生活にどうつながるの必要性を伝えながら、指導する。 ○授業改善を進め、生徒の頑張りやよさを認める中で、学習意欲や態度、集団規律を守ろうとする意識につなげる。 ○有効な支援方法、配慮事項など職員間の情報共有・共通理解を図り、役割分担をして指導を行う。スクールカウンセラー等とも連携し、面談や授業を通して自己理解を深め、気持ちのコントロールの仕方や困ったときに相談する力を身につけていく。

		<p>○歯と口の健康への意識が低く、歯科検診後の受診行動に結びついていない。 ○歯磨きの習慣は身に付いているが、方法が不十分な生徒が多く、口腔内の清潔が保たれていない生徒が多い。</p>	<p>○自らの歯と口の健康に関心を持ち、課題を見つけ、主体的に行動できる自己管理能力が育成されている。 ○地域や家庭と連携し、関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組むことができる。</p>	<p>○関連教科で時期に合わせて取り扱い、理解を深める。 ○委員会活動を通して、啓発を行い理解を深めている。 ○保護者・地域との連携を強化していく。</p>	<p>○10月28日(木)に、歯科衛生学習を計画している。 ○関連教科に合わせて、委員会での呼びかけをしていく計画としている。(歯の衛生指導等) ○6月の保健日より、歯の健康に関する記事を掲載した。</p>	<p>B</p> <p>○今年度計画した内容を実施していくとともに、来年度の取り組み内容について検討していく。 ○生徒が主体となった取り組みとなっていくよう、委員会を中心に取り組んでいく。 ○学校保健委員会等で、関係機関からの助言や情報提供を受ける。</p>
		<p>○自分の課題を意識し、積極的に自分から挨拶できる舎生もいれば、自分から挨拶できない舎生もいる。また、他者からの挨拶を返さない舎生がいる。 ○最初に会った職員1人に挨拶したら、その後に出会った職員に挨拶をしない舎生も多い。</p>	<p>○相手に聞こえる声で、出会った職員に対して自ら「おはようございます」と挨拶することができる。</p>	<p>○なぜ挨拶をする必要があるのか、自分たちで考える機会を設定する。 ○強化週間を設定し、出会った人に対して挨拶ができるよう習慣づけを図る。 ○定期的に振り返りを実施し、自己評価、他者評価を繰り返す。</p>	<p>現場実習等を通して自分の課題を意識できるようになっているものの、自分から挨拶できる舎生は未だ少ない。しかし、少しずつではあるが、職員からの挨拶に返すことができたり、出会うタイミングが少ない異性職員への挨拶ができるようになってきている。</p>	<p>B</p> <p>今後も強化週間を設定し、徐々にあいさつのレベルを上げて取り組み、習慣化を図る。また、強化週間の記録を集計していき、本人の経過を見て他者評価を行い、その都度舎生に伝えていく。</p>
	○自治活動の推進 ～生徒が考え行動する～	<p>○生徒の中に、自分が生徒会活動の主体となって学校生活をよりよいものにしていくという意識が少ない面が見られる。</p>	<p>○よりよい学校生活を築こうとする意欲・行動力を身につけ、生徒が自発的に問題点や課題等を改善・解決している。</p>	<p>○生徒主体による、全校レクリエーションを行う。(自信につなげるために、無理のない範囲で準備・運営を行う。) ○生徒総会を、年間2回実施する。</p>	<p>○全校レクリエーションでは、委員会ごとに決められた役割の中で、意欲的に活動する姿が見られた。また、初めてとなる生徒総会を通して、生徒の意見を反映させて新たな取り組みを行った委員会もあった。「自ら考えて行動する」という点で、生徒一人一人の意識としてはまだ低い。</p>	<p>B</p> <p>○2回目の生徒総会を実施し、生徒の意見を学校生活に反映する場を作る。 ○ゼロから考えさせることは難しいが、ある程度の枠の中で教師側から問題提起や考え方のサポートを行い、生徒会執行部を中心に生徒の意識を高めていく。</p>
		<p>○琴海会三役を中心に、指示されたことはきちんと協力的にできるが、主体的に自治会活動・行事を企画・運営するところまでは達していない。</p>	<p>○三役を中心に主体的に琴海会の活動・行事に関わり、舎生自ら企画・運営を行う。</p>	<p>○三役会、各行事実行委員会を適宜開催し、自由にアイデアを出し合いながら、可能な限り自分たちで企画立案・運営が行えるよう支援をする。</p>	<p>前期は琴海会の大きな行事がなかったが、舎生から多くの意見要望が出され、三役もそれに対し必要に応じて三役会を行い協議するなど、自治会活動に対して積極的な関わりがみられた。後期で三役も改選となったが、2名が再選となり意欲的である。今年度は琴海祭が中止となったが代替となる行事を主体的に計画中である。</p>	<p>B</p> <p>琴海祭代替行事はゼロからの企画になるので、新型コロナウイルス感染症対策を含めた実行可能性を考慮しながら、自分たちで企画・運営できるように支援する。</p>
	○学校運営協議会を活用した地域連携・企業連携	<p>○昨年度、3回の会議を実施した。その内1回は、就労に視点を絞って技能検定の様子を参観した後、協議を行った。</p>	<p>○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、各分野からの助言を受けながら本校の取り組みを進めている。</p>	<p>○地域と連携した取組事例を残していくとともに、現在の状況でできる活動を継続していく。 ○現在も行っている企業との日常的な連携を継続するとともに、新たな企業へ向けての情報発信を行うことで連携を深める。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の状況から、技能検定と同日開催してきた学校運営協議会の開催を見送った。 ○県教育委員会主催の就労促進セミナーを企業参観日として位置づけ、繋がりのある企業の方の来校を促す取り組みを進めていく。</p>	<p>B</p> <p>○2月の第2回目の学校運営協議会をまとめとして、それまでに学校だより等の送付を行うことで学校の取り組みを伝えていく。 ○企業参観日も含め、日常的な企業訪問等これまでの企業との連携を継続していく。</p>
		<p>○昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、企業を対象とした学校公開ができなかった。昨年度、企業情報についての情報提供を受けた。</p>	<p>○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、情報提供を受けるとともに情報発信を行うことで連携が推進されている。</p>	<p>○昨年度情報提供を受けた企業へ向けて、本校の情報発信を行う。(学校案内送付・訪問等) ○学校運営協議会において、就労という視点も含めて協議を行う。</p>	<p>○第1回の学校運営協議会で、コロナ禍における就職の状況なども含めて情報共有をした。今後も、引き続き連携していく。</p>	<p>B</p> <p>○第2回の学校運営協議会にて、引き続き就労の視点を含めた情報共有や協議をする。</p>
	○生涯体育、文化、芸術活動(部活動等)の推進	<p>○参加できる大会が、少なくなっている。そのため、部活動に対するモチベーションが保ちにくい。</p>	<p>○部活動、大会等に自主的に参加する生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている。</p>	<p>○部活動参加率を昨年度より上げる。 ○部活顧問会、部長会の活性化を進める。 ○部員、教職員の参加状況を把握し向上させる。 ○HPを利用して生涯スポーツの紹介を行う。 ○生徒の活動場面や大会参加状況の情報発信を行う。(ホームページ・Facebook) ○地域のスポーツクラブや文化活動に参加している生徒の紹介を行う。</p>	<p>○1年生の部活動参加率が低い。引き続き参加を呼びかけている。 ○顧問会は月1回開催している。また、部長会を開きコロナ対応や各役員に周知する内容を顧問と一緒に考えて取り組むことができている。 ○新型コロナウイルス感染症の関係で、各種大会が中止になっているので紹介ができていない。 ○全国大会の切符を陸上・フットベースボールで勝ち取ることができた。卒業生の大会に参加する生徒が増えてきた</p>	<p>C</p> <p>○コロナ禍で大会がなくなったり、部活動に対するモチベーションが下がっている現状をふまえ、この機会にしっかり部活動の在り方について検討し、参加意欲のある生徒、将来的に文化芸術に取り組める生徒の育成をするため規約や活動の見直しを図っていく。 ○今後も県の指針に則り、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の取り組みを意識し安全・安心な部活動に取り組む。</p>
	○啓発・広報活動の工夫(保護者、地域住民、小中学校、企業)	<p>○来校・訪問等を通じた地域支援や地域と連携した活動が難しい現状から、これまで行ってきた啓発・広報活動が困難となっている面がある。 ○小中学校は、進路選択に向けた体験や見学等のニーズが高い。</p>	<p>○現在の来校・訪問等を通じた地域支援や地域との連携した活動を継続するとともに、日常的な活動の様子の情報発信が行われている。</p>	<p>○ホームページの刷新を行う。 ○Facebookを活用し、日常の取組の様子の情報発信を行う。 ○保護者に向けて、ログインページを活用して保護者に学校や寄宿舎の様子を知ってもらえるような取組を継続する。 ○地域のニーズに応えるため、学習場面への参加や公開等の規模や方法を工夫し、実施する。</p>	<p>○記載内容を精選することで、見やすさが増したホームページとなっている。 ○Facebookにより、日々の学校生活についての発信が行われている。 ○定期的なログインページの更新が行われている。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大状況から、形態などを工夫しながら地域との連携を進めている。</p>	<p>B</p> <p>○必要な情報が得られる、ホームページづくりを進める。 ○Facebookを活用し、日々の情報発信を継続する。 ○ログインページの特徴を生かし、具体的な生徒の生活の様子を発信していく。 ○形態や参加人数を工夫し、双方向の連携を継続していく。</p>
	働きやすい職場・成長できる組織作り	<p>○昨年度は時間外業務月45時間を越える職員は昨年度いなかった。しかし、個々に見ていくと差が見られる。</p>	<p>○引き続き、月45時間・年間360時間を越えない時間外業務とする。(継続・時間外業務減少)</p>	<p>○衛生委員会において、個々の時間外業務について確認をする。適宜、声かけを行う。 ○時間外業務の差を校内組織という視点で捉え、今年度変更した検証を行うとともに来年度の組織作りにつなげる。(職員アンケート等)</p>	<p>○毎月の衛生委員会において、個々の時間外業務の確認を行っている。 ○来年度の組織づくりの基礎資料の把握というところまでにはなっていない。</p>	<p>B</p> <p>○定期的に衛生委員会を開催するとともに、産業界から助言を求める。 ○最終評価に向けた職員アンケートや保護者アンケートから、変更した校内組織の検証を行う。</p>